



こんにちは！ 松前町地域包括支援センターです♪

さあ、行楽シーズンです！ 外へ出てみませんか？

暑い夏が終わり、過ごしやすい秋になりました。
秋といえば、芸術の秋、食欲の秋、読書の秋などといいますが、皆さんは
何の秋を連想しますか？



秋を満喫するために、ちょっと遠出して紅葉を楽しむことやその土地のおいしいものを食べる、温泉につかり身も心もあつたまるのもいいですね。また、遠出する機会が少ない人は、地域の祭りを楽しむ、美術館や本屋をのぞくなど、身近にも秋を感じる方法があると思います。季節を目で感じ、肌で感じることで、活動の司令塔である脳にも刺激を与え、体も心も元気になりましょう。

1人でできることもあれば、家族やお友達などと一緒だと楽しさが倍増することもあります。外出することで、気分転換ができた、新しいことを発見できたり、みんなと交流しながら、充実した楽しい時間が過ごせるといいですね。

最後に、インフルエンザ予防のため、外出後には手洗い・うがいを忘れず、くしゃみ・咳がある時には咳エチケットを守りましょう。

☎ 健康課地域包括支援センター係 ☎985-4205

ふるさと歴史散歩⑤③

松山市松前町を訪ねるⅡ

(松前史談会レポート)

味酒が原・味酒郷の地名は、“うまい酒”に由来するというが、良質の水に恵まれて酒造業を営む豪商などが立地したとのこと。松前町に縁のある大寺や豪商の栄華のなごりを訪ね、松山城下町の縄張りにこめた嘉明・重信の思い、松山市の成り立ちを勉強した。

「札の辻」から本町・魚町・松前町の各筋へと紙屋町を西へ向かうと、嘉明が築城の時に勝山の頂上から遷座した阿沼美神社(味酒社)の前を通り、松平(久松)家の菩提寺大林寺に出る。天守閣からまっすぐ西へ見通す設計になっており、藩主にとって特別な場所であることが判る。松前町の北端は「海の表玄関」へ通じる三津道であり、公儀番所があった。三津口である。あまり知られていないが、三津にも松前町があった。ここには松前町から移った船手組があり、水軍関係の水夫・船大工・船具商など様々な人々も移り住んだ。現在も、松前町との関係は深い。



▲松前から移転した酒造業で豪商の廉屋(栗田家)の元住居。当時は建坪800坪もあったらしい



▲松前から移転した妙園寺。その跡地に現在の妙寛寺がある。武井宗意ゆかりの寺である



▲三津港との間で、川船が物資の輸送に活躍した(大三島宮裏手)



▲日蓮宗大法寺堂々たる本堂と境内

関ヶ原の戦いの後、慶長8年(1603)、徳川幕府がスタートした。多くの地で支配者が替わり、新しい城と町が建設された。2003年頃、日本全国で、「〇〇城築城400年」の記念行事が行われた記憶は新しい。嘉明の松山城からは、優れた防衛力と雄大な規模もさりながら、水路・道路網の整備、整然とした町割り、商業の育成、寺社の配置などにおいて、新しい時代への意気込みを強く感じる。

さて、「松前引け」である。味酒地域の寺院に限ってみても、現存の由緒ある12寺のうち6寺(大法寺・法泉寺・浄蓮寺・妙有寺・正明寺・得法寺)を挙げることができる。栗田樗堂埋骨碑・菊屋新助の墓碑などもある。

周辺には、樗堂の庚申庵や屋敷跡・妙園寺など見るべき史蹟が多い。次の機会には、もっとゆっくりと訪れたいと思っている。

10月のふるさと歴史散歩は休みます。

☎ 松前史談会(鷺野) ☎984-5439